

2018年度環境経営活動レポート

対象期間：2018年7月～2019年6月



®環境省
エコアクション21
認証番号0004315

マトヤ技研工業株式会社

2019年7月6日発行

目次

1. 経営理念	3
2. 環境経営方針	4
3. 組織の概要	5
4. 認証・登録の対象組織・活動	7
5. 2018年環境目標とその実績・評価	8
6. 2018年環境目標の取り組み計画と評価	9
7. 2019年度の取り組み	10
8. 環境関連法規等の順守状況	11
9. 代表者による全体の見直しと評価	12
10. 環境活動の紹介	13

1. 経営理念

- 社会的信頼と責任

会社を取り巻く人々と誠意を持って協調し、お客様の視点で考え、お客様に安心して安全な機械装置を提案し、社会的信頼と責任を果たします。

- 会社の発展

永続的発展を第一とする健全経営を推進し、業界の先頭に立ち、絶えず新技術を創造し、社会から支持され、信用される企業経営に努めます。

- 社員の幸福

社員の幸福の達成に努め、社員は産業人として絶えず研鑽に努め、創意工夫と進取挑戦の精神で仕事に取り組みます。

2. 環境経営方針

マトヤ技研工業株式会社 環境経営方針

人類の利便性を求める経済活動が一方では地球環境の破壊に繋がり、人類の存在を脅かしています。マトヤ技研工業は、「社会的信頼と責任・会社の発展・社員の幸福」という経営方針を達成する為に「低炭素・循環型・自然共生社会」を考慮し、省力化・環境配慮機器の開発、製作、販売事業、並びに有益な社内環境活動を通じ、持続可能な社会環境を追及してまいります。

1. 事業活動全般における電力・燃料等のエネルギーの効率利用や水資源の有効利用による環境負荷及びコスト削減を追及し、最適な企業活動を目指します。
2. 省力化機器メーカーとして、お客様に省力化や環境配慮商品を供給し、労働負荷や環境負荷並びにコスト軽減に貢献する企業を目指します。
3. 業務及び製作工程における一般・産業廃棄物の発生を抑制し、発生物は資源への還元を目指します。
4. 当社周辺の緑豊かな地域に鑑み、化学物質の適正保管と使用、排出抑制を行なうと共に生態系への影響の少ない物質への切替えに取り組みます。
5. 地域に育まれる企業として、地域周辺の環境保全に全社員で取り組みます。
6. 環境保全活動を体系的に運営し、定期見直しを行い、継続的改善・汚染の予防を積極的に実施します。
7. 環境関連法規及び同意したその他の要求事項を順守する等コンプライアンスの向上を目指します。
8. この環境方針は、当社の環境活動の指針として全従業員に周知し、一般の方に公開します。

制定日：2008年6月1日

改定日：2018年7月1日

代表取締役 益留 福一

3. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

マトヤ技研工業株式会社
代表取締役 益留 福一

(2) 所在地

本社 〒899-8608
鹿児島県曾於市末吉町南之郷3050-6
宮崎工場 〒885-0063
宮崎県都城市梅北町11267
大阪営業所 〒561-0853
大阪府豊中市服部南町1-4-10
東京営業所 〒121-0011
東京都足立区中央本町4-15-13

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

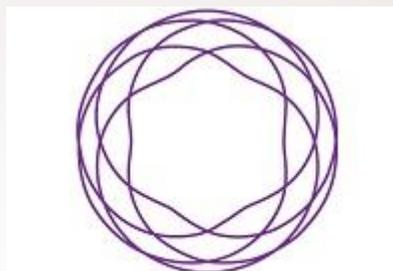
環境管理責任者 豊増 敏夫（取締役専務）
環境事務局 益留 房代（取締役総務部長）

5 連絡先 TEL 0986-76-0018
FAX 0986-76-2729
E-mail info@matoya.com

(4) 創業 1985年6月

益留、豊増、山内 の三名で創業。
それぞれの頭文字からマトヤと名付ける

(5) 事業内容 自動省力機器設計・製作および販売



地域未来牽引企業

地域未来牽引企業に
経済産業省から選定
されました。



鹿児島県発明くふう展
で、センマイ洗浄機が、
協会会長賞を受賞しま
した。



インターシップの受け入れ
もしています。モンゴル高
専からも1名来りました。

毎年、各高校や各団体の方々が、
工場見学に来られます。

(6) 事業の規模 (2018年度：2018年7月～2019年6月)

売上高 830百万円

従業員	本社	大阪営業所	東京営業所
	48名	2名	3名

(7) 当社のプロセス



食肉・食品関連機械と電子部品生産システム自動車部品・クーラント関連機械の3部門 工業所有権 は 25 件

<主な製品>



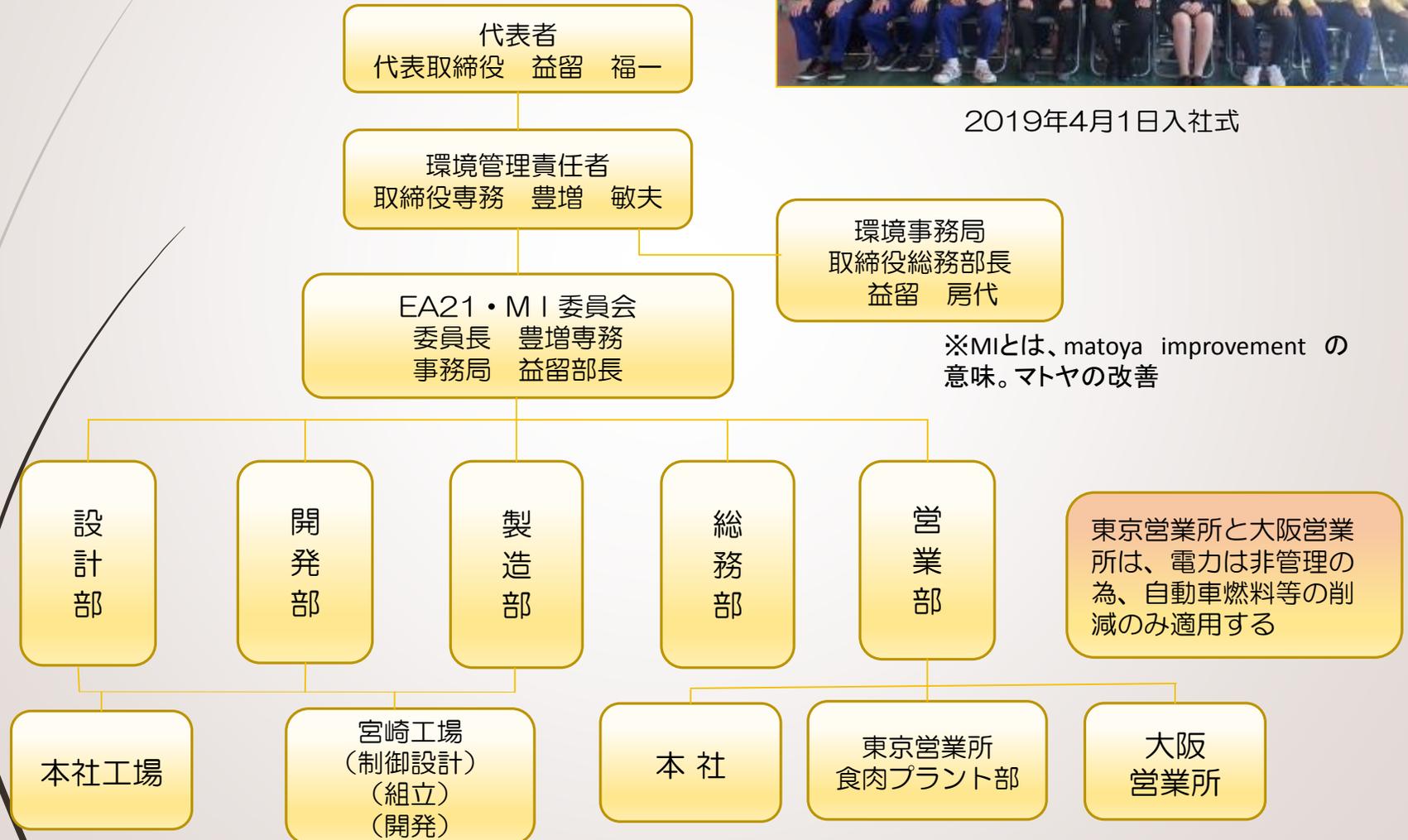
4. 認証・登録の対象組織・活動

適用範囲：マトヤ技研工業株式会社 本社・宮崎工場
大阪営業所・東京営業所

事業範囲：自動省力機器設計・製作及び販売



2019年4月1日入社式



5. 2018年度 環境目標及びその実績・評価

1. 二酸化炭素排出量の削減
- | | | |
|-------------------|----------|-------|
| | 目標 | 実績 |
| ① 電力の削減：LED照明に変える | 設計室 → | ○ |
| | 加工場 → | ○ |
| | 食堂 → | × |
| ② 燃料の削減：基準年比 | 本社 △1% → | △7.8% |
| | 東京 △1% → | △1.2% |
| | 大阪 △1% → | 2.2% |
2. 産業廃棄物の削減：リサイクル率 80% → 90%

3. 水使用量の削減：基準年比 本社 △1% → △13.6%
宮崎工場 △1% → 73.4%
4. 化学物質の低減：化学物質の保管管理及び保管場所の徹底清掃

5. 環境配慮製品の開発及び販売促進

- ① クーラント製品及び遠心分離機等
- ② 業務用 光触媒環境浄化装置

販売目標 74台 実績85台

7. 地域清掃活動

2018年度 目標 49回 実績 49回

☆東京営業所と大阪営業所では、電力と水資源と廃棄物は、共有の為管理できませんので、自動車の燃料CO₂の削減のみ行いました。

項目		基準年度	2018年度 2018年7月～2019年6月			
			2017年度	目標	実績	評価
売上高		百万円	718	-	830	-
電力の削減	本社	LEDに変える	-	設計室	設計室	○
		kg-CO ₂	※1	加工場	加工場	○
				食堂		×
燃料CO ₂ 排出量	本社	kg-CO ₂	46,118	45,657 △1%	42,533 △7.8%	○
	東京	kg-CO ₂	14,343	14,120 △1%	14,176 △1.2%	○
	大阪	kg-CO ₂	8,283	8,200 △1%	8,469 2.2%	×
	合計	kg-CO ₂	68,744	68,057 △1%	65,178 △5.1%	○
産業廃棄物排出量		リサイクル率	※2 79%	80%	90%	○
水資源排出量	本社	m ³	※2 236	234 △1%	204 △13.6%	○
	宮崎工場	m ³	※3 128	127 △1%	222 73.4%	×
化学物質の適正管理と清掃		回	24	24	36	○
環境配慮製品販売量		台	※2 73	74	85	○
地域清掃活動		回	※2 49	49	49	○

評価は、○は達成、×は未達成

※1) 購入電力のCO₂排出係数は、九州電力の2017年度調整後排出係数0.463kg-CO₂/kWhで、算出しています。

※2) 基準年度：2015・2016・2017年度実績の平均値です

※3) 基準年度：2016・2017年度実績の平均値です

6. 2018年度 環境活動の取り組み計画と評価

◎よくできた ○できた
 △あまりできなかった ×できなかった

取り組み計画	達成状況	評価	取り組み計画	達成状況	評価
電力による二酸化炭素排出量の削減			産業廃棄物(廃プラ)の削減		
冷房温度28℃設定	○	LEDの交換は、設計室、食堂を予定していましたが、食堂は、次年度に繰り越しとなりました。	委託処分廃棄物の削減	△	仕事量の増加に伴い、量は多くなりましたが、業者を変えた事に取り、リサイクル率が上がりました。
暖房温度の18℃設定	○		工事での産廃の分別徹底	○	
不要休憩時間照明の消灯	○		産廃ボックスへの廃棄物の最小化	○	
OA機器のこまめOFF	○				
エアコンフィルタの定期清掃	○				
電灯のLEDへの交換	△				
断熱フィルム	○				
自動車燃料の二酸化炭素排出量の削減			節水		
急加速発進の抑制	◎	2t車を、クリーンディゼル車に替えました。	雨水の有効利用（洗車等）	◎	宮崎工場へ雨水タンクの増設を実施しました。
冷暖房の控え目使用（27℃）	◎		雨水タンクの増設	◎	
買換え時はエコカーを購入する	◎				
一般廃棄物の削減			化学物質の低減		
裏紙利用両面印刷コピーの徹底	◎	段ボールの引き取りは、無償の引き取りになりました。	化学物質の保管管理及び清掃	◎	毎月、キッチンと管理も清掃も行って、在庫を増やさない努力をしました。
ペーパーレス化の推進	◎		塗装場清掃徹底1回/月(年12回)	◎	
ミスプリントを減らす	○				
雑誌カタログ段ボールの再生利用への徹底	◎				
シュレッダー廃紙のリサイクル化	◎				
納入業者へ段ボールの引き取り依頼	○				
			製品への環境配慮		
			クーラント製品等の販売	◎	順調に売り上げる事ができました。
			業務用光触媒環境浄化装置の販売	○	
			社会貢献		
			公民館の清掃	◎	毎週水曜日の掃除の日に、暑い夏の日も一生懸命行ないました。
			周辺道路の清掃	◎	

7. 2019年度の 取り組み

(1) 2019～2021年度 環境目標

東京営業所と大阪営業所の目標は
 ①環境方針等の掲示や環境活動レポートやマニュアルの設置。そして定期的な環境学習
 ②燃料CO₂排出量の削減の取組を行います。

年 度 項 目	基準値	2019年度目 標	2020年度目 標	2021年度目 標
		2019年7月 ～ 2020年6月	2020年7月 ～ 2021年6月	2021年7月 ～ 2022年6月
電力の削減	本社	-	照明をLED に替える	-
燃料CO ₂ 排出量 本社、東京・大阪営業所	本社 kg-CO ₂	2018年度 42,533	42,108 △1%	41,682 △2%
	前年度比			41,257 △3%
	東京 kg-CO ₂	2018年度 14,176	14,034 △1%	13,892 △2%
	前年度比			13,751 △3%
大阪 kg-CO ₂	2018年度	8,384	8,300	8,215
	前年度比	8,469	△1%	△2%
合 計		65,178	64,526	63,874
産業廃棄物リサイクル率	%	3カ年平均値 81	82	83
水資源排出量	本社 m ³	3カ年平均値 217	215 △1%	213 △2%
	宮崎工場	3カ年平均値 239	237 △1%	234 △2%
化学物質の適正管理と清掃	回	2018年度 36	36	36
環境配慮製品販売量	台	3カ年平均値 81	82	82
地域清掃活動	回	3カ年平均値 50	50	50

(2) 2019年度活動計画

※3カ年平均値は、2016・2017・2018年度実績の平均値です。

取 組 み 計 画		
電力の二酸化炭素排出量の削減	一般廃棄物の削減	節水
<ul style="list-style-type: none"> ・冷房温度28℃設定 ・暖房温度の18℃設定 ・不要・休憩時間照明の消灯 ・OA機器のこまめOFF ・エアコンフィルターの定期清掃 ・断熱フィルム ・電灯のLEDへの交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・裏紙使用・両面印刷コピーの徹底 ・ペーパーレス化の推進 ・ミスプリントを減らす ・雑誌、カタログダンボールの再生利用への徹底 ・シュレッダー廃紙のリサイクル化 ・納入業者へ段ボールの引取り依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水の有効利用（洗車等） ・蛇口はこまめに閉める
自動車燃料の二酸化炭素排出量の削減	産業廃棄物（廃プラ）の削減	化学物質の低減
		<ul style="list-style-type: none"> ・化学物質の保管管理及び清掃 ・塗装場清掃徹底1回/月(年12回)
<ul style="list-style-type: none"> ・急加速発進の抑制 ・冷暖房の控えめ使用（27℃） ・買換え時はエコカーを購入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・委託処分廃棄物の削減 ・工事での産廃の分別徹底 ・産廃ボックスへの廃棄物の最小化 	製品への環境配慮
		<ul style="list-style-type: none"> ・クーラント製品 ・業務用光触媒環境浄化装置の販売
		社会貢献
		<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の清掃 ・周辺道路の清掃

8. 環境関連法規制等の違反、訴訟の有無

環境関連法規制等の遵守状況 法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	規制内容	適用される施設物品等	適用される法規制	規制内容	適用される施設物品等
廃棄物処理法 (一般廃棄物)	<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物の収集運搬業者への委託 契約(覚書)及び許可証写し保管(許可期限切れ更新) 	一般廃棄物(紙くず、段ボール、厨芥、包装等)	資源有効利用促進法	<ul style="list-style-type: none"> 別名:リサイクル法 使用済パソコン等のメーカー回収義務 	社内パソコン
(産業廃棄物)	<ul style="list-style-type: none"> 委託先許可業確認 収集運搬・処理業者との契約(委託契約・産廃管理票発行・5年間保管) 産廃保管基準、保管置場の表示 産業廃棄物管理票交付等状況の行政報告 自社による運搬時の表示・書類携行 多量排出業者、産廃処理計画・実施状況報告書提出、特別管理産業廃棄物管理責任者の設置 	廃プラ 金属くず 廃油 廃酸 コンクリートくず	騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> 特定施設の届出 空気圧縮機7.5kW以上。規制基準の遵守 	空気圧縮機7.5kW 2台
			毒物及び劇物取締法	<ul style="list-style-type: none"> 事故時連絡 保管場所の表示 盗難、流出防止 	硝酸
			労働安全衛生法	<ul style="list-style-type: none"> 有機溶剤の適正な管理・SDSの周知 	塗料用溶剤
浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> 設置届出・浄化槽の維持管理 定期点検・定期清掃・定期水質検査 	合併浄化槽	フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> フロン類回収・破壊の適正取扱い 業務用IT기기・冷凍冷蔵庫管理者の簡易・定期点検、漏洩量行政報告義務 	業務用空調設備 コンプレッサー
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> 使用済み車は引き取り業者に引き渡す。新車購入時にリサイクル費用を支払う 	自動車			
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> 家電製品の廃棄時にリサイクル料金支払い 	TV、冷蔵庫、家庭用エアコン			

環境関連法規及び条例等への違反、また訴訟等の有無について、2019年7月1日に確認した結果、法律違反等はありません。

また、地域住民からの訴訟や苦情や要望、行政からの指導などは創業以来ありません。(2019年7月1日現在)

9. 代表者による全体の評価と見直し

1. 環境活動の取組み結果の評価

- 赤札作戦は今年も継続されて、結果的に5S活動にも連携して、成果がみられました。
- 産業廃棄物の減量、塵のリサイクルは、業者を変更した事によって、リサイクル率が改善されました。
- 宮崎工場の雨水タンクをようやく設置しましたが、期末の設置の為、節水には効果がありませんでした。売上げが増えた分、水を使うテストも増えて、宮崎工場の節水は達成できませんでした。
- 改善メモをペーパーレスにしてネット化しましたが元号変更時に少し混乱が見られました。
- 工事用の2tトラックを、若い従業員の安全対策の為、オートマチックのクリーンディゼル車に変更しました。東京営業所は東北の雪道対策のためにサクシードの4輪駆動車に替えました。大阪もサクシードに替えました。
- 塗装室の排気部を改良しました。
- 開発室周囲のブロック工事、事務所横土手の崩落対策をコンクリート舗装で施工しました。

2. 実績の評価

- 電力削減は、設計室、加工場、食堂の照明をLEDに替える目標でしたが、食堂は来期になりました。
- 産業廃棄物のリサイクル率は、業者を変更した事で、10%多く達成できました。
- 化学物質の管理は、継続して毎月良く出来ました。塗装場の清掃も定期的に行なっています。
- 環境配慮製品の販売は、今年は、脱油機等、新しいシステムも開発されて目標達成できました。
- 地域清掃活動は、引き続き達成できました。道路清掃をしている中で、道路の陥没を発見し、自動車事故が発生する前に、補修をしてもらうような予定外の効果もありました。

3. 今後の取り組み

- 當於市は、この梅雨は大雨で異常気象を感じ、継続してエコアクション21に取り組む大切さを感じます。
- 宮崎工場の節水対策は引き続きトライします。
- 産業廃棄物のリサイクル率の目標達成に向けて真剣に取り組めます。
- 利益の推移をみて、工場の壁や屋根の点検をして、雨漏り対策等を行ないます。
- BCP対策の一環として、キュービクルの配線関係の古さを指摘されているので、場所を移設するなど計画します。

10. 環境活動の紹介

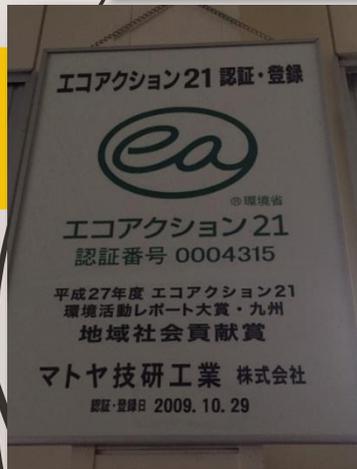
1. 環境経営方針の周知



全社員を対象に、エコの報告会をしました。



新入社員3名に、エコ新人研修を行いました。



エコアクション21環境活動レポート大賞地域社会貢献賞のパネルや賞状も掲示しています。



酸洗いの液が流出した場合の対策の説明も行ないます。

2. 環境関連法規の遵守



年一回の防災訓練を行いました。
地震が発生しその後宮崎工場から出火と想定して、火災
報知機も実際鳴らしました。



永田防災さんから、消火器の使い方を習い、水
入りの消火器で試してみました。



毎年、火災警報器の点検と消火器の点検をしています。火災
報知機の取り扱いについても学びました。



3. 二酸化炭素排出量の抑制



長年、使用していた2t車を、クリーンディゼル車に替えました。前車は、度々故障をしていましたので、安全に安心して乗れます。



本社の加工場と設計室の照明を、LEDに替えました。



デマンドは、しっかり作用しています。

4. 資源の効果的活用の推進



本社の方は、手作りの雨水タンクが2機あり、毎回洗車に利用しています。

宮崎工場に手作りの雨水タンクを設置しました。機械のテスト時にこの水を使用します。





社内の複合機を新型に替えました。

両面コピーはもちろん、裏紙利用もきちんと行なっています

インクカートリッジも回収して引き取ってもらいます



事務所で集めた古切手も、川内なでしこライオンズクラブへ贈呈します。

5. 化学物質の適正な管理及び清掃



塗装場はいつも清掃を行ないチェック表に記入しています。

在庫管理もしっかりしており、余分な在庫は置かないようにしています。

塗料を使う時の、注意書きも貼り出しています



6. 製品への環境配慮

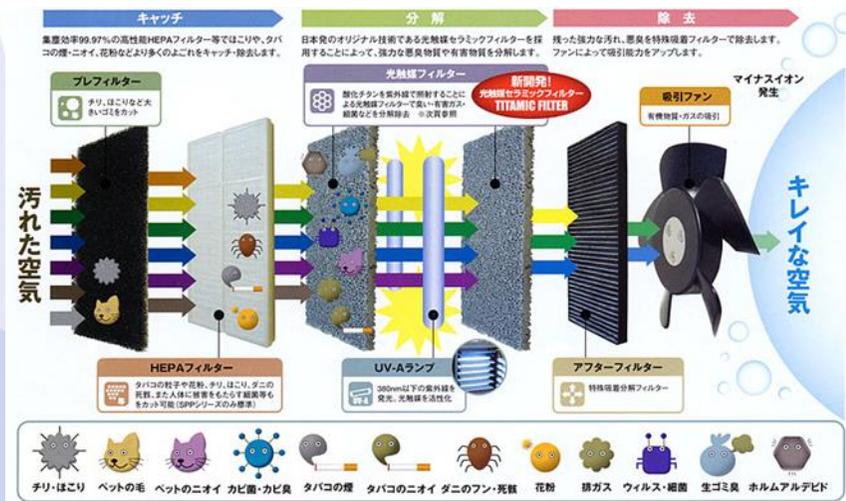
6-1. 環境配慮型クーラント製品の開発・販売



マグネットコンベアーは、機械部品加工会社の機械に取り付けて、切り粉をクーラント液の中から自動的に取り出すことによって、クーラント液の寿命を延ばし、クーラント液の使用量を減らす効果があります。(廃液が減る)

6-2. 除菌と消臭を同時に行う業務用光触媒環境浄化装置の販売

光触媒環境浄化装置（かざとキンとり君）は、業務用として介護施設や病院、空港施設など幅広く使用されています。もちろん、一般家庭用も使用されています。（かざとは、鹿児島弁で臭いです）



光触媒環境浄化装置は、家庭でも病院や介護施設、大学病院等幅広く活用できます。

7. 地域の環境保全事業への参加



檉校区内にある檉神社の小戸池の清掃に、マトヤから3名参加しました。



社員駐車場・三枝前自治会の公民館の敷地内の草刈りや清掃を、毎週水曜日に、行っています。



市道に面した会社の生け垣も手入れを社長自ら行なって毎年綺麗なツツジが咲きます。



駐車場に植えたアジサイも綺麗に咲きました。